

一色青海遺跡

発掘調査地元説明会

会場：メタウォーター下水道科学館あいち

日時：2019年10月5日（土）10：30～

ラジコンヘリによる空中写真（西から）



発掘調査位置図

一色青海遺跡は、稲沢市一色青海町を中心に広がる弥生時代から江戸時代の遺跡です。

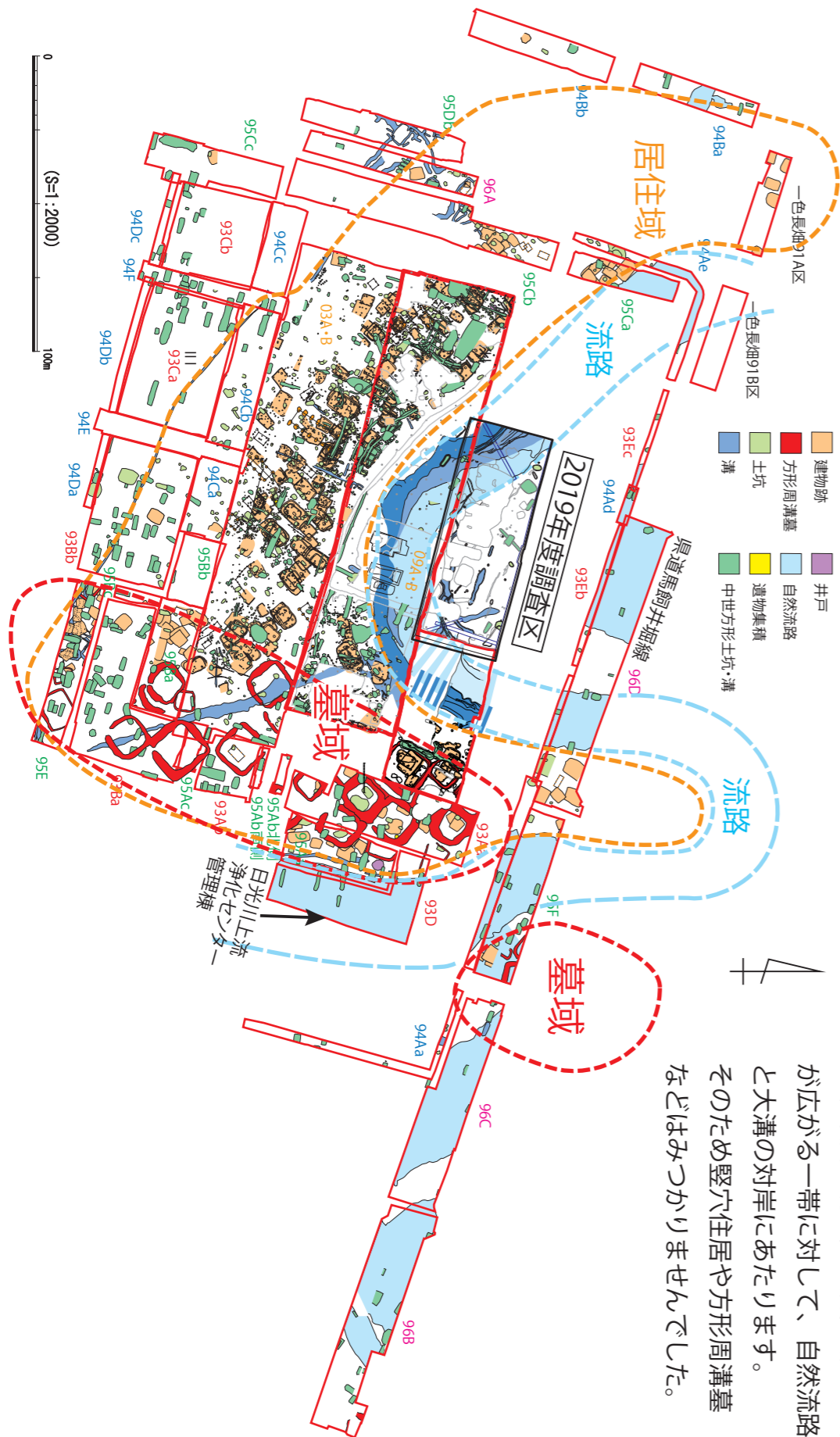
平成5年度から、日光川上流浄化センターの事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が行われており、これまでの発掘調査によって弥生時代中期後半（約2100年前）の集落跡がみついています。

本年度調査における弥生時代の主な遺構は、これまでの調査でも見つかっている自然流路と2つの大きな溝です。溝の幅は約7～8m、深さは約1.5mをはかる大規模なもので、自然流路の埋まったあと、ほぼ同じ位置に掘られています。自然流路と大溝は集落と共存したもので、集落での生活にとって欠かせないものだったようです。

また、鎌倉時代から江戸時代にかけては、耕作に伴う溝や墓とも考えられる方形の土坑（穴）が見つかりました。

最後になりましたが、調査にご協力頂きました皆様、会場を提供して下さったメタウォーター下水道科学館あいち様に感謝申し上げます。今後も埋蔵文化財発掘調査へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

一色青海遺跡集落模式図（弥生時代中期後葉・約2100年前）



令和元年度 一色青海遺跡地元説明会資料

編集配布



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
 HP <http://www.maibun.com>

調査支援



株式会社 シン技術コンサル
 SHIN ENGINEERING CONSULTANTS CO.,LTD

令和元年10月5日配布

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24
 電話 (0567) 67-4163 【調査課】
 Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
 Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

〒459-8001 愛知県名古屋市長区大高町西正地 19
 電話 (052) 613-9708 (名古屋営業所)
<https://www.shin-eng.co.jp>

自然流路 (400NR)

流れの向き

大溝 (600SD)

大溝 (200SD)



中世 (鎌倉時代から室町時代ごろ) の方形の土坑 (穴) を半分掘った状態です。まだら状の埋土が特徴的で、墓とも言われています。



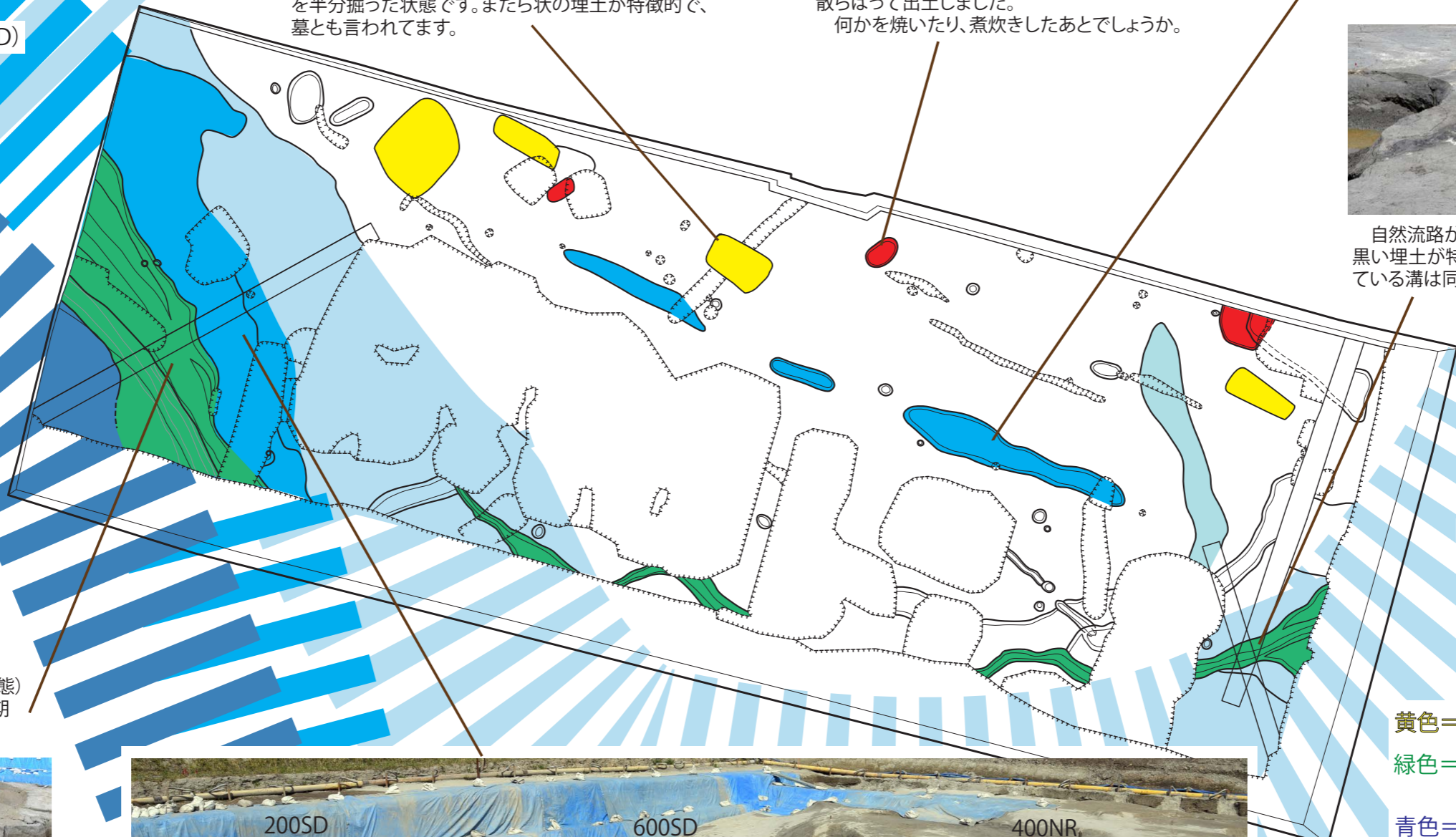
楕円形の土坑から炭化物とその上に甕の破片が散らばって出土しました。何かを焼いたり、煮炊きしたあとでしょうか。



一見壺の口に見えますが、これは底に台の付いた甕です。東海地方の弥生~古墳時代によくみられます。



自然流路が埋まった後に掘られた細い溝で、黒い埋土が特徴的です。下の図に緑色で表している溝は同じような黒色の埋土でした。



流れの向き

自然流路と大溝の検出状況 (掘る前の状態) です。中央の黒い部分は大溝より新しい時期の溝 (上の図で緑色の部分) です。



大溝 (200SDと600SD) と自然流路 (400NR) の土層断面です。

黄色 = 中世 (鎌倉時代以降) の土坑

緑色 = 大溝より新しい溝 (弥生時代中期後半・集落廃絶後)

青色 = 弥生時代の自然流路・大溝・溝 (弥生時代中期後半・集落と共存)

赤色 = 土器・炭化物を含む土坑 (弥生時代中期後半・集落と共存)

0 (S=1:300) 20m